

# 人権ニュース

日本キリスト教会 人権委員会 発行  
2023年度 NO.2 発行日 2023年10月13日  
発行元 〒090-0035 北海道北見市北斗町2-1-30  
日本キリスト教会 北見教会気付  
Tel/Fax 0157-23-3361

- ◇「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者100年キリスト者追悼集会」に参加して 篠塚 予奈 …1~2
- ◇ 狭山事件・過去・現在・未来 森田 幸男 …2
- ◇ アイヌ語を学んで 長谷部 一郎 …3~4

## 「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者100年 キリスト者追悼集会」に参加して

関東大震災から100年となる今年、2023年9月1日から二日後の9月3日(日)午後4時~5時30分、在日大韓基督教会東京教会を会場に開催された「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者100年キリスト者追悼集会」に参加してきました。なお、この集会にはWebによる同時配信がありました。

今度の追悼集会の主催者である実行委員会の構成メンバーは日本カトリック正義と平和協議会と、おもにNCC日本キリスト教協議会の構成メンバーである諸教会、教派それぞれの代表者でした。日本キリスト教会も大会人権委員会を通してこの実行委員会に関わっていました。

受付で配布された追悼集会の式次第は、聖書、讃美歌、各種の祈り、聖書の説き明かしによるメッセージの全文等、他に資料も合わせてA4サイズでその大部分、日本語と韓国語の対訳、併記されているものであり全部で27頁になるものでした。

式次第に従い、司式者による次の呼びかけの言葉で追悼集会は始まりました。「この追悼集会に集った私たちは、1923年9月1日に発生した関東大震災の後、謂れのない差別によってその命を奪われた多くの朝鮮人・中国人犠牲者の魂の平安を祈ります。また、命の尊厳をないがしろにしてしまう私たちの心を省み、悔い改めと未来への誓いを共にいたしましょう」と。この呼びかけの言葉の後、讃美歌が歌われ、「100年前の出来事」と題しての「朝鮮人・中国人虐殺」の歴史が読み上げられ、聖書のコヘレトの言葉4章~3節が朗読されて、「悔い改めの祈り」が、司式者と会衆による交読でなされました。司式者に

よるその祈りの最初の文言は次のものです。「主よ、私たちは大きな罪を犯しました」と。そして会衆がするよう先ず指示された祈りの文言は次のものです。「100年前の関東大震災の後に、想像を絶する虐殺事件を起こしました。軍部、警察、そして、民衆が、朝鮮人の方々と中国人の方々を捕らえて、6,000人の命を奪いました。憎悪と狂気に満ちた出来事であり、人間が、同じ人間に対して犯したおぞましい大罪でした」。

この祈りの文言、開会の呼びかけの言葉他、今度の追悼集会に参加して「私たち」と言われたことについて特に考えさせられています。今度の追悼集会に参加し、関係している「現代に生きる日本のキリスト者」とされた「私たち」の中で、自分は何者であるのかということに改めて考えないではおられなくされたのです。

私がこのことを考えるため、御言葉による光であると捉えることが出来た聖書の説き明かしによるメッセージを金鐘洙牧師から次のように聞きました。

「不当に死んだ者の権利とは、なぜ死ななければならなかったのか、どのように死んだのか、死んだ者の名前と彼が住んでいた場所を探して知らせることです。少なくともそれだけでも虚偽なく知らせれば、死んだ者たちの権利のほんの一部でも回復されるのではないのでしょうか」と。

「現代に生きる日本のキリスト者」であり、今度の追悼集会に参加している「私たち」が「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者」を追悼することは、このメッセージのようすべきであることであると聞くことが出来まし

た。このメッセージのように「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者」を追悼する者が、「私たち」「現代に生きる日本のキリスト者」であるとするならば、少なくとも、その「私たち」とは誰のことであり、いつの時代に生きている何者であるのかということ先ず、

弁えていて明らかにしているものでなければならぬのではないかということです。

今度の追悼集会のチラシと案内文はNCC日本キリスト教会協議会のホームページにPDFファイルで公開されています。

篠塚予奈(横須賀教会牧師、大会人権委員)

## 狭山事件・過去・現在・未来

◆「狭山事件」と言われても若い人の中にはどんな事件なのか、ピンと来ない人があるかもしれません。また年配の方の中には、まだあの事件は終わっていないのかと思われる方がいるかもしれません。しかし狭山事件は、現在も未解決の切実な冤罪事件なのです。

◆狭山事件は1963年(昭和38年)5月に、埼玉県狭山市で起きました。高校1年の女生徒が下校時に襲われ、被害者となった強盗強姦殺人事件及びその裁判で無期懲役刑が確定した元被告人石川一雄さんが今も無実を訴え再審を求めている事件です。事件発生時24歳だった石川一雄さんも、今は84歳になっておられます。60年の長きにわたって無実の罪を負ってこられたのです。並大抵のことではありません。私は一日も早く再審が開始され、石川さんの身の潔白が、天下に明らかになる事を切に願っています。

◆日本キリスト教会は1983年10月3日に結成された「部落問題に取り組むキリスト教連帯会議」(略称:部キ連)に加盟しています。加盟教団は次の11教団です。近畿福音ルーテル教会、在日大韓基督教会、日本カトリック司教協議会、日本キリスト教会、日本基督教団、日本自由メソヂスト教団、日本聖公会、日本ナザレン教団、日本バプテスト同盟、日本バプテスト連盟、日本福音ルーテル教会(以上11教団)。部キ連結集の目的についてはその規約第二条にこうあります。「部キ連は、全日本にあるキリスト教団・教派が

連帯し部落差別を克服することを目的とする」と。

◆あたかも今年「狭山事件」発生から60年目、部キ連が結成されて40年目になります。部キ連では、毎年春3月に、日本基督教団・狭山教会を会場にお借りして、「狭山現地調査・学習会・及び再審要請行動」を行って来ました。

◆もう10年前の事になりますが、心に刻まれて、決して忘れ得ない事があります。それは、上記の現地調査を終えて、石川一雄さんの現地事務所にお寄りしての別れ際、妻の石川早智子さんが満面に笑みをたたえて、こう言われたのです。「石川を見ていて、わたしは、人は変われるのだと思いました。わたしは、石川によって自由にされたのです」と言われた事です。私はこの言葉をお聞きして「狭山闘争」は実質的に勝利していると思いました。石川一雄さんの、長きにわたる犠牲と戦いは、部落差別を相対化し、多くの人々を解放してきたのだと思いました。これは、10年前のことですが、その時74歳であった石川一雄さんは今や、84歳になっておられます。まだお元気な内に、その冤罪を全天下に晴らしたいとの思いをいよいよ強くしています。

森田幸男(大阪北教会牧師、  
大会人権委員会協力委員)

◆以下狭山事件再審を求める集会の案内です。

### 狭山事件の再審を求める市民集会

2023年10月31日(火)13:00  
於日比谷公園大音楽堂

### キリスト者前段集会

2023年10月31日(火)10:30  
於 聖公会聖アンデレ教会  
住所:東京都港区芝公園3-6-18  
TEL 03-3431-2822 FAX 03-3434-5698

# アイヌ語を学んで

## 1 はじめに

国民国家が成立した明治以降から今日に至るまで、我が国の統治機構やそれを支える法体系に通底している思考に、我が国は「単一民族」だとする神話があり、それは教育を通し強調、且つ徹底され国民意識を形成してきた。

それに抗して先住民族・少数民族・先住権などがある、あるなどという思想が我々の意識に登ってきたのはいつ頃のことであろうか。

年表を見ると、1982年、国際連合が「先住民に関する作業部会」を設置し、'87年北海道ウタリ協会がそこに初参加。'92年のノーベル平和賞は中米グアテマラのマヤ族の女性活動家が受賞し、同年12月から国連が「世界の先住民のための国際年」を宣言し、世界が先住・少数民族に光を当て始める。'94年6月萱野茂が参議院議員選挙で繰り上げ当選。彼は環境特別委員会で初めてアイヌ語で代表質問をし、内閣委員会ではアイヌ民族の同化と保護を目的に作られた「北海道旧土人保護法」（1899年公布）に変わる先住民族としての権利を尊重するアイヌ新法制定を求めている。そして、'94年12月以来国連の「世界の先住民の国際十年」の活動中、'97年「**アイヌ文化振興法**」が制定され、アイヌ民族が旧土人から解放され日本の少数民族として位置づけられると共に、国や地方自治体の責任としてその言語・文化の継承者の育成、調査研究、国民への啓発が定められた。

'07年国連の「先住民族の権利に関する国際連合宣言」が日本政府も賛成し、また'08年衆参両議院本会議で「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」も採択されたが、これは'19年の「**アイヌ施策推進法**」で初めて先住民族が明記される。一層の国等の責務による施策推進計画の作成、民族共生象徴空間施設の管理、アイヌ政策推進本部の設置等が定められた。しかし、北海道ウタリ協会（現北海道アイヌ協会）が求めていたアイヌコタンの権利、例えば漁労・狩猟・採集等を行うことを可能とする権利、即ち先住権やアイヌ人が公の場でアイヌ語を使用する権利、アイヌ語教育を受ける権利等を保障する規定は定められなかった。

## 2 アイヌ語の役割と特徴

'19年のアイヌ施策推進法に基づいて新たに統合された「公益財団法人アイヌ民族文化財団」の重要事業の一つとしてアイヌ語講座の開設がある。北海道では6カ所、そして、東京でも「アイヌ交流センター」で開設されていたので、昨年（'22年）5月から今年の3月まで合計20回参加した。毎回前半は語学、後半は明治以降のアイヌ人の多様な歩み振り返る2部構成で進められた。

### (1) アイヌ語の役割

私が今回学習したアイヌ語は幌別方言であると最初講師から説明があった。幌別とは登別でもあるが、こうした方言が8つあると考えられていて、更にその範囲は、樺太、北千島、本州東北地方北部に広がるものらしい。彼らは国家を形成し国語に当たる標準言語を持つことがなかったから、あるのはこうした個々の方言だけである。夫々の言語は家族間や家族の集合である共同体での人の関わりの重要手段であったが、そのコタンが極小化し、国家が一律に特定言語を強制するとき、アイヌ語の第一の役割は消滅していくしかなかった。

他方、文字を持たなかったアイヌ人は「語り部」を通して多種多様な物語群を継承してきており、今やそれらは聞き取られ日本語に翻訳され容易に触れることが可能となった。『アイヌの物語世界』（中川裕著）はその物語群を ①カムイの物語 神話、②人間の物語 散文説話、③超人の世界 英雄叙事詩に分類し教えてくれるものだ。

①がアイヌ人のカムイが何であるか明らかにしている。今日我々は「神話」の代表的な作品を岩波文庫に収められている 知里幸恵の『アイヌ神謡集』で容易に読むことができる。そこには梟・狐等の神々が登場し、その視点から人間の生活が描かれていく。そこには二つの国がある。

アイヌモシリ ⇔ カムイモシリ  
(現実の人間の国) (人間にない力を  
持ったもの全ての国)

カムイモシリの特徴は生き物・自然現象・病気・飢饉などの災いまでがカムイとされている。一匹一匹、一本一本の個体全てにカムイが存在するから、その種全体の神とする日本の八百万の神とも、全被造物の上に君臨するキリスト教の創造神とも異なる。カムイ達はカムイモシリでは人間と同

じ姿で同様の生活していてアイヌモシリにやってくる時、夫々が余所行きの身支度をし、例えば熊であればその肉と毛皮を身に着けてやってくると思っていた。その利益供与に対して人はイナウと酒をもって労うのである。こうした特徴を勘案すると彼らにとってカムイとは殆ど「自然」と置き換えることが出来ると中川裕は語る。そこには狩猟・採集民族として山・海・川・野の幸や時に災いに依拠してきたアイヌ人の自然観が色濃く反映している。

## (2) アイヌ語の特徴

### i アイヌ語の文字と音韻

アイヌ語には日本語と同様に固有の文字がない。現在アイヌ語の表記には下記で示したようにローマ字表記とカナ表記があるが、時代により、人によって表記が違っていて、未だ正書法が確立していない。

今回、学習で用いた音素表記とカナ表記の原則（幌別方言）の開音節は

アイウエオ	ハヒフヘホ
a i u e o	ha hi fu he ho
カキクケコ	パピプペポ
ka ki ku ke ko	pa pi pu pe po
サシスセソ	マミムメモ
sa si su se so	ma mi mu me mo
タトウテト	ヤユイエヨ
ta tu te to	ya yu ye yo
チャチチュチェチョ	ラリルレロ
ca ci cu ce co	ra ri ru re ro
ナニヌネノ	ワ ウェ ウォ
na ni nu ne no	wa we wo

開音節とは母音だけ、或いは母音と子音の組み合わせで生まれる音の違いであるが、日本語の言葉の多くはこの開音節から構成されるが、アイヌ語にはヨーロッパ言語に似て閉音節（子音＋母音＋子音）が多く含まれ、例えば地名の幌別は poro-pet（意味は大きい川）カナ表記ではポロベツと小文字で表される。しかし、上記のアイヌ語の開音節は母音の数と発音、子音の種類といい現在の日本語にかなり近いものがあり、母音の数の多い英語やハンブル、二重母音まであるギリシャ語、子音からなるヘブル語に比べると日本語とアイヌ語の親和性は著しく高いと言える。

### ii 文法上の類似点

- ①語順は主語＋目的語＋動詞である。
- ②日本語の「てにをは」にあたるものがある。（下線部）

mata un ko upas as paykar un ko upas nin  
冬になると雪が降り、春になると雪が消える。

- ③形容詞・副詞＋名詞である。

poro cise 大きな家 tanne etu 長い鼻

- ④基礎語彙に関連のあるものがある。

kap 皮 se 背 poye 掘る nup 野  
pakari 計る kotuk くっ付く

### iii 文法上の相違点

- ①動詞・形容詞等に活用変化がない。
- ②動詞は動作の対象を必要とする他動詞とそうでない自動詞で語形が異なる。主語の単数・複数でも語形が異なるものがある。
- ③日本語の形容詞にあたる言葉は、アイヌ語では自動詞と機能する場合がある。

poro pet 大きな川 pet poro 川は大きい

- ④人称代名詞には「誰は・誰が」を表わす主格人称接辞として1人称・2人称、更に単・複があるが、3人称はあまり出てこない。1人称複数「私たちは」は「話し相手を含む/含まない」で区別を付けなければならない。更に「誰に・誰を」を表す目的格人称接辞がある。これにも単・複と「話し相手を含む/含まない」で区別をつける。

⑤主格及び目的格人称接辞が接辞と言われる所以は日本語のようにそれが独立して用いられるのではなく常に動詞の語頭に付着して用いられる点である（両者は=で示す）。

ku=cis 私は泣く

topenpe e=e お菓子を君は食べる

この特徴は抱合語と呼ばれるイヌイットやアメリカ先住民らの言語（エスキモー諸語、インディアン諸語等）に共通するもので、アジアでは珍しい分類に属するのだという（服部四郎『日本語の系統』、片山龍峯『日本語とアイヌ語』参考）。これに関連し、過去に持ち去られたアイヌの人骨の返還が問題になっているが、近年の形態学・遺伝学の発達で縄文人・渡来人・本土日本人（ヤマト）・アイヌ人・琉球人の密接な関係をDNAを通して詳細に説明している（斎藤成也『日本人源流』）。

長谷部一郎（多摩地域教会長老、  
大会人権委員）